平成 28 年度　長岡高校スーパーサイエンスハイスクール

名　称	サイエンス・イマージョン　プログラム
期　日	平成 29 年 1 月 17 日（火）～18 日（水）1 クラス 3 時間
会　場	1 学年各教室
対　象	1 年生全員（午前・午後 2 クラスずつ　2 日間で合計 8 クラス）
目　的	・外国人の留学生を講師に招き，自身の研究分野に関する講義を聞き，得た情報について議論する。 ・科学的なトピックについて，ディスカッション，プレゼンテーションを行う。（トピックは，講師の先生が複数提示した中から生徒が選択。） ・以上の全活動を英語で行うことで，グローバル社会におけるコミュニケーションツールとしての英語の必要性を知るとともに，英語によるコミュニケーション能力を高める機会とする。
内　容	講師：Mr. Rakesh Ayer　（ラケシュ　アイヤー）さん 東京大学大学院　健康科学専攻 講義テーマ「感染症とそれが引き起こす諸問題について」 Ms. Bouchra Lachkar（ブララ　ラシュカル）さん 筑波大学大学院　医科学専攻 人間総合科学研究科　博士課程在学 講義テーマ「女性のがんについて」 ・1 時間目：講師の先生による研究の紹介，質疑応答。 ・2 時間目：プレゼンの方法についての説明。科学的テーマについてのグループ討論，プレゼン原稿準備，講師の先生の指導。 ・3 時間目：プレゼン準備→プレゼン→講師の先生によるコメント。

Bouchra 先生の研究テーマである「女性のがん」についての説明

Rakesh 先生による，英語プレゼンの方法についての説明

グループ討論、及びプレゼンの原稿作り（講師の先生によるアドバイス）	グループ毎にクラス全体へプレゼン（このあと、質疑応答、先生のコメント）

アンケート評価	事前アンケート Q．プログラムを受けることに対してどう感じますか。 「とても楽しみだ」 11.0 ％ 「少し楽しみだ」 54.0 ％ 「少し面倒だ」 31.0 ％ 「とてもいやだ」 4.0 ％ 実施後アンケート Q.プログラム受講後どう感じましたか。 「とても良かった」 ５８.0 ％ 「どちらかといえば良かった」 ３９.0 ％ 「どちらかといえば良くなかった」 2.4 ％ 「とても良くなかった」 0.6 ％
感想など	「留学生はとてもペラペラで英語を話していた。自分もそうなれるように日々学習をがんばりたい。とても楽しかった。」「人前で発表することが苦手な私は，やってもいないのに苦手だと決めつけていただけなんだと気づけた。」「英語に対する見方が変わり，ただの言語というより，コミュケーションツールとしての側面をより実感させられた。」「HIV という話題を通して，世界のどの国でも問題になっていることは共通で世界中で苦しんでいる人たちがいると分かった。とても有意義な時間で，とてもよく考えることができた。」「医療について興味を持っていたので，がんについて知り，考えることができ，とても良い機会になった。」「がんの体への影響が，その人の年齢，健康状態，家族の有無など様々な要因と結びついていることに驚いた。他の病気でも，（このような要因が）体に影響するのか気になった。」